

珍番号紙幣の魅力

あなたも同記号同番号の紙幣を集めませんか

by Chibiyosi

二〇二五年五月号で、私は六組の同記号同番号の紙幣を紹介した。そしてその後、コレクションはわずか一年で、一四組に増えただけでなく、同記号同番号の三枚セットも登場した。

確率からいうと、コインディーラーも目を疑うようなとんでもない奇跡であるはずのコレクションが、どんどん伸びて内容もさらに濃くなっているということである。

あなたも奇跡を起こすことを楽しんでみないか。プロのディーラーが見ても、その凄さが一瞬でわかる凄いコレクションである。仲間が増えれば、お互いに欲しい紙幣を融通しあい、マッチング件数がどんどん増える。貴方にも同記号同番号のコレクションを所有できる可能性が十分ある。

私はこの分野では世界でナンバーワンであることは間違いないと確信しているが、友人が私のコレクションを超えるようなコレクション、例えば同記号同番号の四枚セットを揃えたりしても、けっしてジェラシーを抱いたりしないつもりである。それどころか、マッチングするものを持っていたら、喜んで提供しようと思っ

ているぐらいだ。

以前の投稿でも提唱したが、私はメンタルシエアという楽しみ方を提唱している。仲間が素晴らしいコレクションを入手したら、ともに喜ぶ。写真を提供してもらい、心の中で、自分のコレクションに加えるのだ。勿論、所有権は尊重するが、借景のように自分のコレクションに加えるのだ。万、万、万が一、不況でコレクションが値下がりしたらお宝を見せ合って慰め合おう。そういった仲間が欲しい。

素晴らしいコレクションになったら一緒に喜びたいと思っている。

参加したい方は、是非、メールを頂きたい。

yoshi10@yahoo.co.jp

(ワイゼロエスワンエイチワンエルゼロ)

★ギネス級のコレクション… 三枚の同記号同番号

二〇二五年一月六日一二時一〇分。私は月刊『収集』誌上入札の落札結果を見てガッツポーズをとった。成立確率が超天文学的と言っ

て良い奇跡的なコレクションが完成した瞬間である。

コレクションの内容は以前から集めていた同記号同番号の紙幣の三枚セットである(写真1)。

夏目漱石千円札大蔵省印刷局緑番号
Y5555555X
野口英世千円札茶番号
Y5555555X
守礼門二千円札
Y5555555X

同記号同番号の紙幣のコレクションであることに変わりはないが、三枚セットは当然初めてである。ランダムに三種類の紙幣をピックアップして、それが同記号同番号である確率は次のような計算となる。

$$\frac{1}{12,960,000,000} \times \frac{1}{12,960,000,000} = \frac{1}{167,961,600,000,000,000}$$

この論拠は最初の一枚を特定の番号に固定して、二枚目が同記号同番号になる確率は $\frac{1}{12,960,000,000}$ 、そしてさらに三枚目も同記号同番号になる確率はそのまま $\frac{1}{12,960,000,000}$ 。従って二枚目も三枚目も一枚目と同記号同番号になる確率が、先述の数式になる。

ただ、現実には個々の紙幣が日銀に回収され



【写真1】Y555555X 夏目1000円（大蔵省緑）、野口1000円（茶）、守礼門2000円

て破碎されてすでに存在し無い可能性もあり、実際にはこのようにいかないであろうが、一旦、ここではそれを考慮しないこととする。億の上は兆という単位があり、兆の上は京と

いう単位があるが、そのまた上の垓という単位になる。超天文学的な単位として表れる。

Copilot（公話型のA IAアシスタント）を使って、このコレクションが再現するか、またギネスブックに載るかどうか聞いてみたが、世界的に見ても再現する可能性は限りなく低く、掲載される可能性も大いにあると最大限の評価をしてくれた。コレクターとしてこれにまさる喜びはない。

★同記号同番号の紙幣は十分な予算と時間をかければ入手できる

本誌二〇二五年五月号で著した通り、同記号同番号の紙幣をマッチングさせることはある程度の枚数の珍番号紙幣を集め、コインショウやオークションで相棒を根気よく探せば、決して不可能ではない。だがやみくもにお札の任意のシリアル番号を付け合わせていたら、誰がやっても一生かかってもできるものではない。なにしろマッチングするのは二九六億枚に一枚しかないのだから。最大のポイントは珍番号紙幣に絞ることだ。

珍番号のパターンは約二〇種類に過ぎない。

- ①ゾロ目が11111111〜88888888の8種類
 - ②キリ番が1000000〜9000000の9種類
 - ③それ以外に000001、123456、654321の3種類
- （登り番は012345、234567、下り番

が987654、543210等があるが、市場に出る枚数が少ないのでここでは無視する）

$$① + ② + ③ = 20 \text{種類 (A)}$$

一方、記号のパターンは次の通り「I」と「O」は紛らわしいので使わない。使うアルファベットは24種類である。

$$① \text{二ケタのものはアルファベットが前後三つあるので } 24 \times 24 \times 24 = 13824 \text{種類 (B)}$$

$$② \text{一ケタのものはアルファベットが前後二つあるので } 24 \times 24 = 576 \text{種類 (C)}$$

$$③ \text{(B) + (C) = 14400種類}$$

そこで珍番号紙幣の組み合わせは

$$\begin{aligned} ① \text{二ケタは } 20 \text{ (A)} \times 13824 \text{ (B)} &= 276480 \text{種類 (D)} \\ ② \text{一ケタは } 20 \text{ (A)} \times 576 \text{ (C)} &= 11520 \text{種類 (E)} \\ \text{合計 (D) + (E)} &= 288000 \text{種類となる。 (F)} \end{aligned}$$

今現在九三五枚の珍番号紙幣（A—A券、Z—Z券を除く）を持っている。私はこれを「台札」と呼んでいる。コインショウやオークションで一枚市場に登場するたびに、九三五枚の紙幣それぞれについてマッチングする可能性がある。九三五枚の宝くじを持っていて当選番号をチェックするようなものだ。

マッチングする確率は

$$935 / 288000 \text{ (F)} \approx 1 / 308$$

さらに一ケタと二ケタに分けて考えてみる。私は珍番号紙幣を一ケタは一七八枚、二ケタは七五七枚持っているから